

I 監督退任ご挨拶 「10年の指揮を終えて」 竹内 達郎

私は、過日行われました2020年夏季茨城県大会の4回戦（対多賀高校戦：5対6で敗退）をもちまして水戸一高硬式野球部監督を退任いたしました。



振り返れば2011年4月に本校監督に就任して10シーズン指揮させていただきました。これもひとえに皆様方のご支援の賜物でありますことを御礼申し上げます。十年一昔と言われるかもしれませんが、就任直後の4月2日の小山高校での練習試合は先日の多賀高校戦と同様に鮮明な記憶として蘇ってきます。まさに電光石火、あっという間の10年でした。就任当初は東日本大震災直後であり、今年はこのコロナ禍。はじめとおわりに試練が立ちはだかりましたが、そこにはどんな状況下においても真摯に向き合う選手たちの姿がありました。私も指導者として彼らの前向きな姿を見て学ばせてもらったことが多かった気がします。そして、そのような試練に選手たちとともに果敢に挑んだ経験は大きな財産となりました。

石の上にも三年、面壁九年、苦節十年という故事成語がありますが、文字どおりのそのような時間を経てきた気がします。就任当初の3年間は思うように勝ち星が重ねられず選手には残念な思いばかりさせていたと反省しております。当初より、ただ我武者羅な指導についてきてくれた、それぞれの世代の選手には感謝しています。また、それぞれの場面で矢面に立って支持していただいた部長先生をはじめとする顧問の先生、スタッフの皆さんのお陰で監督業が貫徹できたことは深謝に止みません。そして指導の年数を重ねて、選手の人心掌握が可能となり、ようやくにして9年目（令和元年）で秋の県大会に出場、10年目の今年（令和2年）の夏季大会は4

回戦（ベスト16）に駒を進めることができました。

しかし、皆様が待ち望んでいる成果をあげる点においては、まだ道半ばにも達していないと受け止めております。ご期待に添えず大変申し訳ない気持ちであり、この場をお借りしてお詫びいたします。一方でどのようなチーム状況においても、皆様からいただいた温かいご声援にはどれほど勇気づけられたことでしょう。皆様への感謝の気持ちは生涯忘れません。大変ありがとうございました。

今回、退任のごあいさつを寄稿させていただく機会を得ましたので、この紙面をお借りして、これまでの振り返りを皆様にお伝えさせていただきたいと思っております。

学生野球の父と称される飛田穂洲先生を輩出された本校は、過去3回（水戸中学2回、水戸一高1回）の甲子園出場を果たしております。1954（昭和29）年以来の本校の甲子園回帰は、三の丸倶楽部の皆様はもとより、多くの高校野球ファンの待望論と理解して是が非でも甲子園出場と肝に銘じ指導してまいりました。このような甲子園出場への道のりは、練習量に比例して導き出せるほど単純な方程式ではありません。よって就任当初より、北は北海道、南は四国高知まで全国を行脚し、甲子園レベルの強豪校へ遠征を敢行して選手たちに全国レベルのスピード・パワー・技術、そして強豪チームにおける勝負に対する厳しさを競争意識を肌で感じさせました。当然、「たとえ技は彼らより拙くても、野球に取り組むハートだけは絶対に負けるな！」と常時鼓舞しながら戦ってきたところです。選手たちは旅情も含めて、見聞を広める絶好の機会となったことは思い出深いものです。全国的には本校と同じような伝統ある公立進学校が、21世紀枠や地方大会を勝ち抜いて甲子園大会に出場している事例が数多くあります。我々も励みにするとともに、「為せば成る」という精

神で練習や試合に臨み、近い将来において大願成就させてほしいと思います。

本校野球部の門を叩く選手は、中学時代の鳴りものではなく、むしろ野球経験の少ない伸びしろのある人材でもあります。野球の技術や基礎体力は、一朝一夕に向上させることはできません。しかし、はじめは上手くならなくてもひたむきに努力したり、工夫したりする姿勢は本校生の持ち味です。3年生の夏の大会を迎えるころには、入学当初から比べ別人のように伸びる選手が出現し、活躍を見せることは毎年驚くことばかりです。これは、本校の選手ならではの現象だと思います。毎年のチームづくりの中で、3年生中心のチームづくりを推進してきたのもこのような理由によるものです。各年代の夏の大会の戦い方は諦めない粘り強い姿勢が顕著に現れ、毎年脈々と受け継がれてきた気がします。とくに1試合だけ取り上げるならば、平成27年7月10日に行われた夏の選手権大会1回戦の鹿島学園戦（延長12回：9対8で勝利。試合時間5時間3分）の死闘は、就任当初からの各年代の執念が凝縮されたものと痛感しています。その後、毎年夏の大会でも同様のドラマチックなゲーム展開が巻き起こされてきたことは、ベンチを預かる監督としても驚嘆の連続であり、選手たちから多くを学ばせてもらいました。

小中学生の野球部員にとって、伝統ある水戸一高のユニフォームを身に纏い活躍することは大きな夢でしょう。ひとたび本校野球部に入部したならば、ここを出発点として3年間の高校野球生活で培った精神を将来にわたって高めてほしいと考えてきました。これからの世の中は、社会が目まぐるしく変化し、予測困難な時代に突入していくことが見込まれています。しかし、この厳しい世の中において、果敢に挑み生き抜いていける術は、練習で心技体・走攻守あらゆる分野で鍛錬を積み重ね、試合では局面ごとに知的推理と状況判断をもとにプレイを遂行していくことを通じて大いに磨かれると確信し指導にあたって参りました。その中で選手の競技力や体力の向上にもまして心の側面、いわゆる人づくりに焦点を当ててきたところです。具体的には、個人面談、読書の奨励、部朝礼などを実施してきました。それによって選手たちの内面に迫り、野球人として、さらには将来社会人として通用するような人物に育てたい思いも根底にありました。ここ数年は、ビジネスの分野で積極的に取り入れられているコーチング

の手法を積極的に活用し、従来の上意下達のトップダウン的指導法からボトムアップの指導への大幅なシフトチェンジが奏功した気がしています。教え子たちには、野球のみならずあらゆるフィールドで羽ばたいてもらいたいと思っています。幸い教え子たちは高校卒業後、大学野球のステージにおいて競技を継続しています。10年間で約30人が、立教大学(東京六大学リーグ)、筑波大学(首都大学リーグ)、京都大学(関西学生リーグ)、東北大学(仙台六大学リーグ)、茨城大学(関甲新リーグ)などで大学野球を続け、リーグ優勝や大学日本一を目指し活躍しています。さらに、将来野球の指導者を志している教え子も数多く存在することも指導者冥利に尽きるころです。今後は、自身の教え子で未だ輩出されていない東京大学の野球部員と高校野球監督の誕生を密かな楽しみにしております。



こうして10年間、預かった選手たちと毎年のチームをつくり戦い抜くことは監督の使命と心得て歩んできましたので、その任を離れるということは名残が惜しいところです。とくに7人という少人数ではあるものの粒揃いの現2年生を途中で手放すことは、コロナ禍で春のシーズン当初より十分な練習ができなかったこともあり、一抹の寂しさがあります。しかし、水戸一高という伝統校の監督は一野球人の私情で務まるものではなく、OB監督待望論、新進気鋭の木村先生が昨年赴任されたときから、「新しい酒は新しい革袋に」という思いにいたり、この新チーム発足を機にバトンタッチする意を固めました。このように木村新監督のもと、今後とも水戸一高硬式野球部に対してのご支援ご協力をよろしくお願いいたします。わたくしも野球人、2020年の夏季大会を忘れず歩んで参ります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。皆様、10年間のご声援本当にありがとうございました。

Ⅱ 監督就任ご挨拶

木村 優介 (平成15年卒)

水戸一高の地に足を踏み入れたのは20年前。入学直前に新聞社にインタビューをされました。私の祖父が飛田穂洲に教わり、その孫が水戸一高に入学するというので受けた取材でした。「どんな記事が載るのだろう…」待ち受けていた記事は世論からの厳しい見方を突きつけられたものでありました。「一球入魂、今いずこ」子供ながらに悔しさを覚え、「見返してやろう」と強く思いました。これが水戸一高での私のスタートでした。



時は経ち、伝統あるユニフォームに再度袖を通した昨年4月。竹内前監督のもとで今夏ベスト16入りも経験でき、『『甲子園』の地に水戸一高を』という思いを益々強固なものにさせてもらいました。

130年…創設時からここまで、多くの方々に関わり、今の水戸一高硬式野球部があります。このような時に、私のような者が『監督』をさせていただけること、感謝の念に堪えません。繋いでいただいた想いや皆様方の期待に応えられるよう役目を全うしていきます。

来年度から併設中学校の創設に伴い、本校はクラス減になります。4年後は外部4クラス、内進2クラスの計6クラスになります。様々な状況を鑑み、今後の野球部員の確保や水戸一高硬式野球部の強化は益々困難になってくることが予測されます。その中で「飛田穂洲の母校」

水戸一高硬式野球部をさらに煌めかせるためにも、今後様々な策が必要であり、実行していかねばなりません。実行のためには、多くの方々の協力や理解が必要であります。そういった協力や理解を得るためには、現場がより魅力ある野球部にしていかねばならない、そう考えています。



「物事は起きるべきタイミングで 起きている」

私の好きな言葉です。そのためにも私に与えられた使命を果たし、今の選手たちに沢山の経験をさせてあげられるよう日々向き合っていきたいと思います。

三の丸倶楽部の皆様方からのあたたかいご支援とご協力、より一層の応援を承れますよう、現場スタッフ・部員一同全力で水戸一高硬式野球部を創り上げていきます。今後とも水戸一高硬式野球部をどうぞよろしくお願いいたします。

Ⅲ 2020年夏季茨城県高等学校野球大会応援記

親子で楽しんだ一高野球

折橋 敏秀

(令和2年度硬式野球部父母の会会長)

3月対外試合解禁後、練習試合では敗戦が続きました。コロナウィルスの社会影響が少しずつ拡大する中、4/12の対日立一高戦で快勝。さあこれからという時に、練習・対外試合が禁止されました。練習試合再開は6/14。「今日の練習、試合が最後かもしれない」息子から何度も聞いた言葉です。それでも選手たちは前向きに日々を重ね、何とか大会を迎えることができました。



令和2年 水戸一高の選手

◇地区代表決定戦 (日立市民球場) 7/18

対水戸桜ノ牧高校

1回表、相手投手のボークで先制後、豊田の2点

適時打で3対0。4回に古谷の本塁打等で2点、8回に3点を追加。佐次-古谷-石井の継投で逃げ切り、8対3で勝利。点差は離れていたものの、最後まで相手校の反撃にあい、一勝の大変さを痛感しました。

◇三回戦 (笠間市民球場) 7/24

対岩瀬日大高校

1回裏、一死満塁のピンチを二塁ライナー重殺で切り抜けました。3回に青山、豊田の連続適時二塁打で3点を先制。一高は毎回走者を出す苦しい展開ながらも計3個の重殺で要所を締めました。最後は勝利の方程式「佐次-古谷」の継投により3対1で勝利。

◇四回戦 (JCOMスタジアム土浦) 8/1

対多賀高校

0対1で迎えた2回裏、野々下の適時打で同点。しかし3回にリードを許し1対2で迎えた6回、一

挙4点を奪われ1対6に。一高ナインは、しゃがんで円陣を組み、冷静さを取り戻して反撃に出ます。7回折橋の適時打と古谷の犠飛で3対6。そして最終回。二死一塁から折橋の安打で一、二塁。下位打線から上位打線につなぐ、これまで何度も見た場面。古谷の鋭い打球が右中間を抜け、気迫のヘッドスライディング2点三塁打。1点差。

しかし最後の打者が倒れて試合終了となりました。

難しい環境の中で戦い抜いた2020年夏。最後まで諦めない素晴らしいチームでした。

◇◇一高野球部今後への期待◇◇

多賀高戦翌日、3年生数名を車に乗せました。大会を振り返り、皆が口にした言葉は「出場した下級生が活躍してくれて嬉しかったな」。次の世代に繋がる試合であったといえるよう、今後の活躍を信じています。



対桜ノ牧高 猛打賞の活躍 (豊田)



対多賀高 試合開始



対多賀高 終盤の反撃 (折橋主将)



3試合すべてに力投した佐次



対多賀高 反撃前の円陣



投攻守に活躍した古谷

二回戦

令和2年7月18日(土) 日立市民球場
 天候：曇・霧雨
 試合時間：2時間35分(14:49~17:24)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
水戸一	3	0	0	2	0	0	0	3	0	8
桜ノ牧	0	0	0	0	0	2	0	0	1	3

バッテリー：佐次(～7回)・古谷(～8回)・石井-古谷(～7回)・堺堀

本塁打：古谷(4回ソロ)
 二塁打：豊田(1回、3回) 田中(友)(4回)
 単塁打：田中(友)(1回、9回) 佐次(4回) 宮野(7回)
 豊田(8回) 中山(8回) 野々下(8回)

出場メンバー			
1番	キャッチャー	古谷	(3年)
	8回ピッチャー		
	9回ファースト		
2番	センター	田中(友)	(2年)
	8回レフト		
3番	ピッチャー	佐次	(3年)
	8回センター		
4番	ファースト	青山	(3年)
	8回代走	栗林	(2年)
	8回ライト		
5番	セカンド	豊田	(3年)
	7回ライト		
	8回セカンド		
	9回2/3サード		
6番	ライト	見坂	(3年)
	7回代打	宮野	(3年)
	7回代走	野口	(1年)
	7回セカンド	野々下	(2年)
	8回サード		
	9回ピッチャー	石井	(2年)
7番	レフト	川勾	(3年)
	8回代打	中山	(1年)
	8回キャッチャー	堺堀	(2年)
8番	サード	田中(広)	(3年)
	8回ファースト		
	9回サード		
	9回2/3セカンド	高村	(1年)
9番	ショート	折橋	(3年)



壮行会(7月13日)

三回戦

令和2年7月24日(祝) 笠間市民球場
 天候：曇
 試合時間：2時間28分(12:42~15:10)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
水戸一	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3
岩瀬日大	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

バッテリー：佐次(～7回1/3)・古谷-古谷(～7回1/3)・堺堀

二塁打：青山(3回) 豊田(3回)
 単塁打：野々下(2回、3回) 見坂(7回) 折橋(7回)
 田中(友)(8回)

出場メンバー			
1番	キャッチャー	古谷	(3年)
	7回1/3ピッチャー		
2番	センター	田中(友)	(2年)
	7回1/3ライト		
3番	ピッチャー	佐次	(3年)
	7回1/3センター		
4番	ファースト	青山	(3年)
5番	セカンド	豊田	(3年)
	9回レフト		
6番	サード	野々下	(2年)
	9回セカンド		
7番	レフト	川勾	(3年)
	9回代打	檜山	(2年)
	9回代走	野口	(1年)
	9回サード	田中(広)	(3年)
8番	ライト	見坂	(3年)
	7回1/3キャッチャー	堺堀	(2年)
9番	ショート	折橋	(3年)



試合終了後岩瀬日大選手が来訪

四回戦

令和2年8月1日(土) J:comスタジアム土浦
 天候：晴
 試合時間：2時間41分(15:01~17:42)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
多賀	1	0	1	0	0	4	0	0	0	6
水戸一	0	1	0	0	0	0	2	0	2	5

バッテリー：石井(～6回2/3)・佐次-古谷

三塁打：古谷(9回)
 単塁打：野々下(2回) 古谷(5回) 檜山(7回、9回)
 折橋(7回、9回)

出場メンバー			
1番	キャッチャー	古谷(友)	(3年)
2番	レフト	田中(友)	(2年)
	6回2/3センター		
3番	センター	佐次	(3年)
	6回2/3ピッチャー		
4番	ファースト	青山	(3年)
	8回レフト	川勾	(3年)
	9回0/3サード	田中(広)	(3年)
5番	サード	豊田	(3年)
	9回0/3レフト		
6番	セカンド	野々下	(2年)
7番	ライト	栗林	(2年)
	7回代打	檜山	(2年)
	8回ファースト		
8番	ピッチャー	石井	(2年)
	6回2/3レフト	見坂	(3年)
	8回ライト		
	9回代打	宮野	(3年)
9番	ショート	折橋	(3年)

スポーツ報知加藤記者(平成5年卒)インタビュー



前会報第24号発行（令和2年3月1日）以降の活動状況についてご報告します。

（1）6月7日（日）に開催を予定していた令和2年度の総会は、新型コロナ感染問題を考慮し、書面での開催とさせていただきます。5月初旬に会員の皆様へ活動報告、決算報告、幹事交代などの審議事項に関する資料をお届けし、審議頂きました。その結果、会員の過半数を十分に超える126名の皆様から承認をいただきました。ご協力ありがとうございました。

（2）これにより、これまで約10年間会計担当幹事としてご尽力いただいた池永幹事に代って鹿島幹事（昭和63年卒）に就任いただきました。また、父母の会担当幹事には馬場幹事に代って蒲原幹事（令和元年度父母の会会長）に就任いただきました。

（3）野球部への支援として、平成元年度は以下2件について会費から支出しました。6月末現在の会費残高は820,216円です。

①コーチ謝礼2名分 120,000円

②練習球20ダース 112,366円

（4）令和2年9月1日付けで本会報第25号をお届けしました。

巻頭記事では、監督の交代に伴う竹内前監督の退任

挨拶、木村新監督の就任挨拶をいただきました。シリーズ記事「大学野球を目指す後輩部員たちへ」では平成29年卒の市村悠大さん（筑波大学硬式野球部）に寄稿いただきました。平成28年の茨城大会二回戦対強豪霞ヶ浦戦での力投惜敗は記憶に新しいところです。前報から始めた新企画「新・異・先端分野で活躍する先輩たち」については今回も予定者と折衝したものの、事情により記事収集できませんでした。お詫びします。

（5）今春の地区大会は新型コロナ感染問題で中止となりました。夏の県独自大会（2020年夏季茨城県高等学校野球大会）では二回戦から登場し、佐次君の好投で8-3で桜ノ牧高に勝利しました。終盤に登場した代打3人がヒットを放つなど今後につながる場面もありました。三回戦では青山、豊田君の連続二塁打で3点を先行し、佐次君、古谷君のリレーにより1失点で岩瀬日大に勝利しました。四回戦では強豪常総学院を破った多賀と対戦し、9回裏に古谷君の右中間三塁打で1点差まで追いつきましたが惜敗しました。久しぶりに四回戦まで進出した選手諸君の健闘を称えたいと思います。原則保護者2名のみでの入場に制限された中、応援帽子を着用して場外から応援いただいた会員の皆様ほんとうにありがとうございました。

V シリーズ「大学野球を目指す後輩部員たちへ」

平成29年卒 市村 悠大

筑波大学硬式野球部3年の市村悠大です。現在は学生コーチを務めており、リーグ優勝という目標に向けて日々練習に励んでいます。

約10か月前、私は12年間の選手生活に終わりを告げ、投手コーチとして新たな野球人生を歩み始める決断をしました。レベルの高い環境の中で自分がどれだけ通用するのか試してみたい、そして野球人として成長したいと意気込んで筑波大の門を叩きましたが、一年目は浪人時代のブランクと大学野球のレベルの高さに圧倒されたまま終わりました。大学野球において、2年目は非常に重要な年です。新たに変化・進化していく必要性を感じ、覚悟を決めてフォームの変更やトレーニング方法の改善に踏み切りました。新たな取り組みに手応えを感じてはいたものの、結局自分のものにするにはできず、最終的に立場を変えてチームに携わる決意をしました。「まだ選手として可能性がある、選手を続けたい」という自分に対する期待と、「学生コーチの方がチームにプラスの影響をより与えられるのではないか」という新しい可能性の間で、非常に葛藤したことを鮮明に覚えています。現在の私の目標は、「投手コーチとしてチー



ムをリーグ優勝に導くこと」です。自分にしかできない役割を全うし、残りの大学野球生活を送っていきます。

そして私にはもう一つ、「水戸一高を強くする」という目標があります。水戸一を強くしたいと思って高校に入学しましたが、道半ばで終えてしまいました。もう一度この目標を達成すべく、現在は高校の教員免許を習得中です。こちらでも選手から指導者へと立場は変わりますが、気持ちは変わりません。母校のグラウンドでもう一度野球ができる日を夢見て、野球、勉強ともにさらに精進していきます。

現役部員の皆さん、よく「練習は量より質」という言葉を耳にしますが、「量も質も」両方追及してください。新フォームの習得に向け、理論やトレーニング方法を教わった私は、今思えば質の高い練習をやっていることに満足し、プラスアルファでの取り組みが足りなかったと後悔しています。個人、そしてチームの目標を達成するには何が足りないのかを思考し、習得するまで練習するプロセスは、高校野球や大学野球といったステージに関係なく大切なことです。水戸一高野球部が一つでも多く勝ち上がることを心から願っています。

最後になりますが、日頃より三の丸倶楽部の皆様にはご支援いただき厚く御礼申し上げます。これからも、何卒ご指導・ご鞭撻のほどよろしく願い申し上げます。

VI 硬式野球部 名簿

(敬称略)

部長 小島 淳 監督 木村 優介 顧問 竹内 達郎 太田 泰助

二年生 >>

主将



堺堀 史也
鹿野中
捕手・投手

副主将



石井 陽向
日高中
投手



栗林 修敬
佐野中
外野手



佐藤 航介
田彦中
外野手



田中 友暉
茨城大附属中
外野手・捕手



野々下 光
那珂湊中
内野手



檜山 駿太
結城中
投手・内野手



岡部 知世
茨城大附属中
マネージャー

一年生 >>



秋田 啓人
美野里中
内野手



内田 慧登
水戸四中
外野手



河原井 龍樹
水戸二中
投手・内野手



日下部 貴一
東海中
内野手



眞田 創
那珂一中
内野手



柴田 雄成
美野里中
内野手



高村 泰彰
坂本中
内野手



中村 颯一郎
勝田三中
外野手



中山 晃靖
美野里中
内野手・捕手



野口 喜生
友部二中
投手・内野手



杉山 菜乃華
勝田一中
マネージャー

Ⅶ 試合結果・予定

令和2年度前半 公式戦・準公式・定期戦結果

月	日	大会	球場	結果
1	2	豚汁会	水戸一	○3-2水府倶楽部(6回終了)
7	18	夏季茨城大会 二回戦	日立市民	○8-3水戸桜ノ牧
	24	" 三回戦	笠間市民	○3-1岩瀬日大
8	1	" 四回戦	J.comスタジアム土浦	●5-6多賀

以下新チーム

8	16	ジュニア大会 二回戦	鉾田二	○10- 2鉾田一(7回コールド)
	22	" 三回戦	"	○ 9- 3鉾田二
	23	" 四回戦	笠間市民	● 2-17水戸葵陵(5回コールド)

令和2年度前半 練習試合結果

月	日	球場	結果	備考
3	28	佐和	● 2- 5佐和	
			○21-14 "	
	31	水戸工	●1-6水戸工 ●4-7水海道一	
4	4	岩瀬日大	●3-6岩瀬日大	
			○5-2 "	
	5	石岡一	●2-15石岡一	6回終了
			●6-11 "	
12	水戸一	○7-1日立一		
		○8-3 "		
6	14	龍ヶ崎一	○6-5龍ヶ崎一	7回終了
			○5-1取手一	
		茨城東	●1-4玉造工	一年生主体 3回終了
			●5-7茨城東	"
	21	那珂湊	○13- 0那珂湊	
			● 8-13土浦二	
	水戸一	●2- 8水戸啓明	一年生主体	
		●9-14 "	" 5回終了	
		○5- 1 "	" 2回終了	
7	4	日立市民	○8-5日立商	
			○8-6守谷	
	12	水戸商	●2- 6水戸商 ●1-16 "	

以下新チーム

8	2	はぎまる (高教市民)	●6-12日立一	
			●2-11 "	
6		牛久運動公園	●0-7牛久	
			△2-2 "	6回終了
9		水戸一	●2-10湯本	
			●3- 4 "	
10		小山南	● 7-10小山南	
			○11- 9 "	
12		水戸農	○12-2水戸農	
			● 0-1 "	3回終了

令和2年度後半 試合予定 (令和2年8月24日以降)

(V:相手高G, H:水戸一高G)

年	月	日(曜)	大会・試合・会場等
令和2	8	26(水)	作新学院(V)
		9	4(金) 秋季地区大会組合せ抽選会
		5(土)	小山北桜(V)・栃木農
		6(日)	下妻二(V)
		12(土)	秋季地区大会(～9月15日(火))
		18(金)	秋季県大会組合せ抽選会
		21(祝)	秋季県大会(～10月3日(土))
	10	8(木)	秋季関東大会組合せ抽選会
		10(土)	(歩く会)(～11日(日))
		17(土)	向上(V)
		18(日)	伊勢崎工(H)
		17(土)	秋季関東大会(～25日(日))於千葉県
		24(土)	一年生大会(～30日(金))
	11	1(日)	郡山・磐城(V)
3(祝)		都留(V)	
8(日)		八千代松蔭(V)	
21(土)		水戸農(V)	
22(日)		水商定期戦	
23(祝)		牛久(V)	
令和3	1	2(土)	水府倶楽部定期戦・豚汁会(H)
	3	8(土)	練習試合解禁日

三の丸倶楽部

顧問：稲葉節生 (S38年卒元茨城県教育長)
 会長：鬼澤邦夫 (S38年卒常陽銀行特別顧問
 知道会会長)

事務局長：森利克 (S38年卒)

幹事：

照沼貞夫 (S47年卒、H20年卒父母の会)
 鹿島陽夫 (S63年卒)
 船橋信正 (S63年卒、水府倶楽部)
 飯田芳久 (H元年卒)
 蒲原 博 (R元年度父母の会会長)

////// 会員を募集しています//////////
 ◇水府倶楽部(野球部OB会)及び現野球部
 父母の会会員以外どなたでも入会できます。

◇特典：会員帽子(入会時)の配付、
 会報(年2回)の送付など

◇年会費：一口 3,000円(何口でも可)

◇振込先：常陽銀行本店営業部
 普通 2945619
 サンノマルクラブ

◇手続き：氏名、住所、TEL番号、メール
 アドレスを下記までご連絡ください。
 森利克 Tel/Fax: 0294-53-1351
 E-mail : ihm2158@ak.wakwak.com

編集後記

年明けから続いた先の読めない不透明さ、いわゆる「やな感じ」が、時間の経過と共に増幅拡大、センバツ、選手権ともに甲子園は中止という令和2年の夏となりました。▽この国難の昨今、優先すべきは人命だから大切なのは三密回避と、うがい手洗い。お上の指示通り家に居るのがイチバンだ、というご意見があるのは百も承知であります。▽ただ、18才の夏が一生に一度しかないのも、また事実なのであります。当事者でない者が、外部から何か言うのが気が引けますが、本音をいえば、やらせてやりたいかった。高校野球を観たかった。一高を観たかった。▽とはいえ、この時点で新チームがスタートしているのも事実。選手達が自分の感情にどう折り合いをつけているのかは想像を超えるけれど、この上は一刻も早いコロナの収束を願いつつ、それぞれの信じる道を進んで欲しいと思います。3年生の皆さん、お疲れ様でした。(照沼)